



GOVERNMENT OF THE DISTRICT OF COLUMBIA
OFFICE OF CITIZEN COMPLAINT REVIEW
ワシントン DC 特別行政区政府
市民苦情申し立て審査事務所



730 11th Street, N.W., Suite 500, Washington, D.C. 20001 202-727-3838

ファクトシート

市民苦情申し立て審査事務所 (OCCR) の目的は何ですか？

OCCR は、ワシントン首都警察 (MPD) の警官による不当行為に対し、市民から申し立てられた苦情の審査と解決を行う機関で、独立公平なフォーラムを市民に提供するため、ワシントン DC 特別行政区政府により設立されました。

OCCR の目的は、首都警察の品位、専門職意識、責任性などの基準を最高に保つために働いています。警察の行動に対する市民の苦情を真剣に受け止め、それを経験豊富なスタッフが注意深く調査し、検討することで市民の信頼感は高められるものです。そのスタッフを監督する市民苦情審査委員会は市長によって任命され、市議会によって承認されます。

市民苦情申し立て審査事務所の活動は何ですか？

OCCR は、首都警察あるいはその所属警官に対する市民の苦情について、調査、調停、仲介、却下、あるいは判断を下す権限を持っています。

苦情の内容はどのようなものですか？

OCCR に申し立てのできる苦情は、警官が警察権を乱用、または悪用した場合で、以下のどれにでも基づくことができます。

- ハラスメント
- 不要または過度な力の使用
- 侮辱的、低品位、恥辱的言動や行動
- 人種、皮膚の色、宗教、出生国、性別、年齢、配偶者関係、容姿、性的性向、家族責任関係、身体的障害、政治信念、収入源、居住地域、またはほかの内容で差別された場合
- OCCR に苦情を申し立てた市民に対する報復があった場合

また MPD は市民の他の種類の苦情も処理します。

苦情をどのように申し立てたらいいですか？

苦情を申し立てる最も効果的な方法は、OCCR 事務所に直接来ていただくことです。スタッフが直接、個人的に

面会し、苦情申立書の記入を手助けできます。OCCR はダウンタウンの地下鉄メトロセンター駅の近くにあり、以下の住所です。730 11th Street, N.W. 5th floor, Washington, D.C. 20001 電話番号は (202) 727-3838 です。

他に苦情を申し立てる方法はありますか？

- **郵送またはファックスで** 申し立て用紙は OCCR に電話すると郵送かファックスで送られます。記入が終わったら苦情申立書は郵送かファックスで送り返してください。
- **手紙で** その出来事を詳しく書いた手紙を送ってください。手紙には連絡先の住所、昼間と夜間の電話番号も忘れずに記入してください。必要な場合、こちらから追加情報をお聞きするため連絡を取ることがあります。苦情は手紙に記述していただいても、問題を正式に追及するには署名した公式の苦情申立書が必要です。
- **電話で** OCCR に電話してください。苦情を電話で述べていただいても、問題を正式に追及するには署名した公式の苦情申立書が必要です。
- **MPD に連絡** すべての首都警察地区本部は 1 日 24 時間開いています。警官は市民に丁重に対応し、市民を助けることを求められています。

苦情を申し立てる際に覚えておくことは？

以下の情報は、その苦情を説明する時に、非常に重要です。

- 日時、時間、正確な場所
- 警官の名前、バッジ番号、外見容貌の記述
- 証人の名前、住所、電話番号
- 関係した車両のナンバー
- その他重要と思われる証拠。例えば、交通違反切符、警察報告書、写真、カルテコピーなど。も負傷した場合は、その内容と負傷範囲を書いてください。
- 苦情の申し立てはできるだけ早く出すことが大切です。それによって写真を取ったり、カルテを早く入手することができるからです。苦情申し立てに際しては、個人的記録のためコピーをしてください。
- 苦情は発生後 45 日以内に OCCR に申し立てられなければなりません。

苦情を申し立てたあと、どのように処理されますか？

苦情の申し立てがあった場合、こちらから皆様に連絡し、次のステップをお知らせします。こちらで苦情の当該警官と接触して問題解決を図るか、または、外部の調停者に委託して問題解決にあたります。そこで解決ができない場合、苦情は調査に送られます。またこちらで苦情調査を決定することもできます。苦情についての調査報告書を審査した後に、案件は苦情審査官に送られ、必要な場合は聴聞会を聞きます。もし苦情試験官が苦情の内容のうち 1 つでも認めた場合、その案件は適切な処置のため警察長官に送られます。首都警察が苦情審査官の決定と一致した場合は、その容疑のある警官に懲罰が下されます。OCCR は、苦情をどの段階でも却下できる権限を持ちますが、公正で、完全な苦情処理に全力を尽くしています。